



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名 臨床研修部 伊藤 光希

【研究責任者】

聖路加国際病院 臨床研修部 伊藤 光希

【指導医】

聖路加国際病院 救急部 一二三 亨

聖路加国際大学 臨床疫学HTAセンター 小林クヤキミエステラ

聖路加国際大学 専門職大学院公衆衛生学研究科 高橋 理

当院の救急外来を受診し敗血症と診断された方のうち 心不全の既往がある方を対象とした輸液量に関する研究

1.研究の対象

2011年4月から2021年4月に当院の救急外来を受診した際に、敗血症と診断をされた方、かつ、心不全の既往歴がある成人の方。

2.研究の目的・方法

「Surviving Sepsis Campaign hour-1 bundle (2018 update)」というガイドラインと、「日本版敗血症診療ガイドライン 2020(J-SSCG2020)」とで敗血症患者における必要な輸液量に関する定めが異なっている現状があります。とくに、心不全を合併した敗血症性ショック症例の初期輸液に関しては、「Surviving Sepsis Campaign hour-1 bundle (2018 update)」が強く推奨している輸液量よりも少ない輸液量を推奨する報告が、「日本版敗血症診療ガイドライン 2020」では紹介されており、現時点で心不全既往がある敗血症性ショック患者の輸液方針には定まった推奨がありません。

この研究では、当院の救急外来を受診された対象者の方の初期輸液量とその後の状態を研究することで、その関係を明らかにすることを目的としております。

なお、この調査では通常保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2022年3月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》

救急外来での輸液量、バイタルサイン(意識レベル、体温、血圧、脈拍数、呼吸数等)、既往歴、合併症、入院日数、気管挿管日数、カルテ番号 等

《試料》

なし